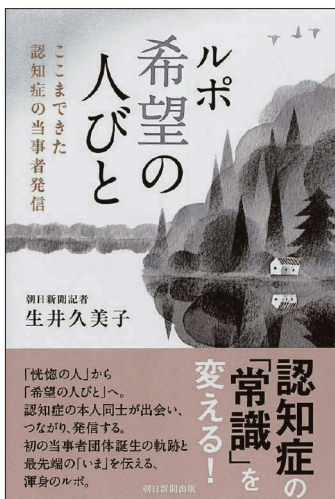




ルポ

希望の人びと

ここまでできた認知症の当事者発信

生井久美子＝著

定価1620円（本体1500円＋税8%）

朝日新聞出版

☎03-5541-8832

認知症はつい10年ほど前まで「痴呆」と呼ばれ、「何もわからなくなる」「なったら人生の終わりだ」と言われてきた。だが2014年、初の当事者団体が生まれ、本人同士が出会い、つながり、発信し始めた。世界の先頭を走るオーストラリアやカナダの当事者との出会い、日本で初めて語った女性、39歳で診断された男性。IT時代になり、「記憶はなくても記憶が残せる」と工夫を発信する人。23年前、「痴呆病棟」で取材を始めた新聞記者が、蓄積された事実から伝える認知症の当事者発信の今。

きょうのお母さんはマル お母さんはバツ 双極性障害の親をもつ子どもにおくる応援メッセージ

肥田裕久＝監修、雨こんこん＝文、はにゅうだゆうこ＝絵
定価1296円（本体1200円＋税8%）

星和書店 ☎03-3329-0031



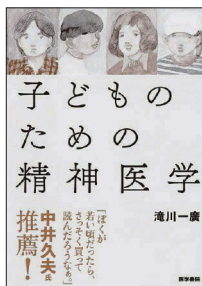
双極性障害のお母さんを、子どもの視線から描いた絵本。病気になるとどんなことが起きるのが子どもにもわかりやすく解説される。病気になったのはお母さんのせいでも誰のせいでもない。ひとりで悩まないで、応援団がいるよ、助けてと言える人が近くにいるよ、大丈夫、あなたはひとりじゃない、ということが伝わる本。

子どものための精神医学

滝川一廣＝著

定価2700円（本体2500円＋税8%）

医学書院 ☎03-3817-5600



460ページに及ぶ児童精神医学のバイブル誕生。自閉症などの精神障害を、異常性とは捉えず、人間が本来持っている心の働きの一側面が突出して現れた姿であると捉える著者が、「発達の遅れとは一体何なのか？」そして「その子のために何ができるのか？」を自分の経験から解説する。原理と実践とが、不思議な温かさでつながっている本。

こころの病を診るということ 私の伝えたい精神科診療の基本

青木省三＝著

定価3240円（本体3000円＋税8%）

医学書院 ☎03-3817-5600



外来で患者さんと出会う時、精神科医は何を見て、何を考えているかがわかる本。「診察前」「診察が始まってから」「主訴のたずね方」「生活歴、既往歴、家族歴のたずね方」「病気が、それとも性格か」「言葉のやりとりを確かなものにするために」「発達を視野に入れる」「トラウマの影響を視野に入れる」「治療と支援の基本」「薬物療法」「精神療法」など。青木省三流ノウハウがつまびらかにされる。

中動態の世界 意志と責任の考古学

國分功一郎＝著

定価2160円（本体2000円＋税8%）

医学書院 ☎03-3817-5600



強制はないが自発的でもなく、自発的ではないが同意している、そうした事態は日常にあふれている。だが、「能動態（する）」か「受動態（される）」かという対立のみで物事を眺めるようになってしまった現代の私たちには、その事態を表現する言語がない。昔々、人々は「能動態」と「中動態」を使って暮らしていたはずという。消滅した「中動態」から見えるものとは。